

宗岡中だより



新春号 平成30年1月9日(火)
志木市上宗岡1-8-1 TEL 048-471-2241

「寒空に 白き明かりや ^{スーパームーン} 超満月」

校長 佐藤哲浩

「新年あけましておめでとうございます」、年末年始は西高東低の冬型の気圧配置になり、日本海側は大雪、太平洋側は冬の晴天になりました。初春の澄んだ蒼空に心も洗われ、新たな計を立てた人も多いことと思います。本年も本校の教育活動にご支援を賜りますようお願いいたします。



1月1日のスーパームーン 於：光が丘公園

今年の干支は戌(いぬ)、正確には戌戌(つちのえ・いぬ)、本来、干支とは十干(甲、乙、丙、丁、戊・・・)、と十二支(・・・申、酉、戌、亥)を組み合わせたものを指します。実は陰陽五行説では「戌」も「戌」も土の陽を表しており、同じ気が重なるため、良いことはより良く、悪いことはより悪くなると言われます。草木が再生するために地に還るように、不要なものは切り捨てることで新たなチャンスが得られる。「果断を以って、一新すべし」と言うことでしょうか。

話は変わって、私事になりますが年末は長野県で趣味のスキーをしたり、年始にはスポーツ観戦が好きな私は高校サッカーや大学ラグビーをテレビ観戦したりしました。そして1月2日は箱根駅伝の往路、エースが集う2区を生で観たいため、横浜の先まで行き応援してきました。その中でも特に印象的だったことは、青山学院大学が総合優勝、四連覇を達成したことです。今年は東海大学や神奈川大学が強く、出雲駅伝、全日本大学駅伝も負け、マスコミからは箱根駅伝は勝てないのではないかと言われていました。往路こそ東洋大学に36秒負けましたが、終わってみれば青山学院の圧巻の勝利でした。そこで今年は原監督の組織論ではなく、「監督の手腕」について調べてみました。その中で前早大駅伝監督、現住友電工監督の渡辺康幸監督の論評に共感したため紹介いたします。

青学大がここまで大差をつけるとは思ってもいなかった。東洋大も6区で逆転されるのは想定内で、7区の実力は五分五分とみていたと思う。ところが学生3大駅伝デビューの林奎介選手(最優秀選手)が区間新記録、追う他校には想定外で優勝の決定打になった。実力がなければ設楽悠太や佐藤悠基の記録は破れない。なぜあんな能力のある選手を補欠に回して隠しておけるのか。脇役がヒーローになれる舞台をつくってしまうのは本当にすごい。今の学生は根性論だけで語ってもついてこない。原監督は厳しさと緩めるところを使い分けて選手と信頼関係を築いている。選手自らが考え自立し、自分たちでやり繰りできる力を植え付けさせた結果、実業団でもやっていける。その言動から派手に見られがちだが、「自分のためでなく陸上界をもっと盛り上げたい」と常々話している。発信に説得力を持たせるには勝ち続けるしかなく、これだけの圧勝劇を見せれば納得させられる。育成、強化だけでなくプロデュース、マネジメント、発信までできる社長のような手腕である。

指導者としてのご示唆をいただいたようです。